



立科町

議会だより



雨、ランチタイム
ばんざーい！

目次

議案審議報告	p2~3
常任委員会報告	p4~5
一般質問	p6~10
特別委員会設置・議会研修会 ..	p11
編集後記	p12

2025.7.23 No.186

令和7年 第2回定例会

令和7年第2回定例会を6月3日から6月13日までの11日間の会期で開き、
条例や補正予算などについて審議を行った。



【結果の表示】 ◎ 全会一致で可決・承認・決定・採択 ○ 賛成多数で可決など × 否決（賛否一覧参照）

◆専決処分（7件）	結果
立科町町税条例の一部を改正する条例	○
立科町国民健康保険税条例の一部を改正する条例	○
令和6年度立科町一般会計補正予算（第8号）	◎
令和6年度立科町国民健康保険特別会計補正予算（第3号）	◎
令和6年度立科町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）	◎
令和6年度立科町介護保険特別会計補正予算（第3号）	◎
令和6年度立科町索道事業特別会計補正予算（第3号）	◎
◆条例の一部改正（1件）	結果
職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部を改正する条例制定	◎
◆補正予算（3件）	結果
令和7年度立科町一般会計補正予算（第2号）	◎
令和7年度立科町索道事業特別会計補正予算（第1号）	◎
令和7年度立科町一般会計補正予算（第3号）	◎
◆陳情（3件）	結果
「さらなる少人数学級推進と教員増のための教育予算確保」と「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める陳情書	○
「カリキュラム・オーバーロード」の改善を求める意見書採択の陳情	○
高額療養費の限度額引き上げの撤回を求める陳情書	×
◆議員発議（1件）	結果
消費税の減税を求める意見書案	○
◆報告（5件）	
専決処分事項（損害賠償額の決定）の報告	
令和6年度繰越明許費・事故繰越し・予算繰越計算書の報告（一般会計、水道事業会計及び下水道事業会計）	

【専決処分】 議会が議決又は決定すべき事項を、地方自治法の規定により、町長が議会に代わって処理すること。

賛 否 一 覧

議案等番号	議 員 名 議案等の件名	秦 野 仁 美	宮 坂 幸 夫	小 野 沢 常 裕	今 井 健 児	芝 間 教 男	中 村 茂 弘	森 澤 文 王	村 田 桂 子	榎 本 真 弓	今 井 清	村 松 浩 喜	今 井 英 昭	議決結果
承認第1号	立科町町税条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	■	○	○	○	—	承認
承認第2号	立科町国民健康保険税条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	■	○	○	○	—	承認
陳情第1号	「さらなる少人数学級推進と教員増のための教育予算確保」と「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める陳情書	○	○	■	○	○	○	○	○	■	○	○	—	採択
陳情第2号	「カリキュラム・オーバーロード」の改善を求める意見書採択の陳情	■	○	■	○	○	○	■	○	■	○	○	—	採択
陳情第3号	高額療養費の限度額引き上げの撤回を求める陳情書	■	■	■	○	○	■	○	○	■	■	■	—	不採択
発議第3号	消費税の減税を求める意見書の提出	○	■	○	■	○	○	○	○	■	■	■	—	可決

※「○」は賛成 「■」は反対 議長の今井英昭議員は採決に加わりません。
※これ以外の案件等は、全会一致でした。

令和7年度一般会計補正予算（第2号）

★賛成 今井 清

令和7年度一般会計補正予算（第2号）では、たてしなびのデマンド交通予約システムの保守管理委託料660万円が計上された。国の交付金を活用して導入するものである。これにより町民の利便性向上が期待される。また、ふるさと寄付金事業経費の補助金200万円は、ガバメントクラウドファンディングで白樺高原花火大会の寄付を募るために活用されるものである。地域課題解決のための広報とふるさと納税の活用が期待され、これらに賛成する。

「さらなる少人数学級推進と教員増の為の教育予算確保」と「義務教育費国庫負担制度の堅持・拡充」を求める陳情書

★反対 榎本 真弓

2025年度から小学校の学級定員は全学年で35人となる。少人数学級を実現するには教員数の確保が課題である。教員不足の要因として、①産休・育休の取得増加、②特別支援学級の増加、③病気による休職者増加、④後継者不足が挙げられる。国庫負担制度はしっかり維持すべきである。この陳情は毎年ほぼ同じ内容で提出されており、議会と議員はその実現に努力すべき責任を負うことを認識し、国の動向に注視すべきである。現状を考慮し、意見書提出に反対する。

「カリキュラム・オーバーロード」の改善を求める意見書採択の陳情

★反対 森澤 文王

詰め込み教育に問題があったとして、ゆとり教育へ。そこに問題があったとした上で、コロナ禍、「働き方改革」の流れがあったにもかかわらず、教育の現場が大変な状態であるならば「カリキュラム・オーバーロード」というのは、国の教育政策に根本的な問題があるなかでの現象の一つではないかと私は考える。

「カリキュラム・オーバーロード」という聞こえの良い現象ではなく、日本の教育の根本を見直すべきと考え、採択する事に反対する。

★賛成 村松 浩喜

「カリキュラム・オーバーロード」とは、教育内容が過剰で児童生徒や教員に過度な負担がかかることだ。学習支援業を営む私は日頃から、中学生の主要教科の学習量が多いと感じている。中学校では主要5教科に加え、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、道徳など多くの教科がある。さらに、総合的な学習の時間や部活動もあり、全てをこなすのは大変だ。文部科学省は新たな学習指導要領を策定中であり、カリキュラム・オーバーロードの改善を求める意見書を提出すべきである。

高額療養費の限度額引き上げの撤回を求める陳情書

★反対 榎本 真弓

高額療養費は医療費全体の2倍の伸びを示しており、社会保険料の軽減と制度維持のために負担上限額の見直しが必要である。2025年1月に全国がん患者団体連合会理事長らと面談し要望を聴取した。与党内では「長期治療の人への対応が必要」として検討を継続中である。石破総理は8月からの負担上限額引き上げを見送る方針を表明したが、医療費の伸びを考慮し高額療養費制度の見直しは必須である。制度の持続可能性と患者負担への配慮から、全面的撤回の陳情は適切でないため、意見書提出に反対する。

★賛成 村田 桂子

この議案は、凍結中の高額療養費限度額引き上げに関する佐久地域の社会保障推進協議会からの陳情である。高額療養費制度は、経済的に厳しい人が継続して療養できるよう月の医療費に限度額を設けるものであり、国の責務である健康で文化的な最低限度の生活を保障する役割を果たしている。今回の引き上げでは、所得階層370万円以下の限度額が5万7600円から最大8万8千円へと増加する。病気による収入減少や物価上昇の中で、限度額の引き下げが求められる。

消費税の減税を求める意見書の提出

★反対 榎本 真弓

日本経済研究センターの調査によれば、消費税の一時減税は「不適切85%」であり、社会保障財源の不安定化を懸念する意見が多い。意見書には「大企業や富裕層に応じた税負担を求めるべき」とあるが、これが立科町議会の考えであるかは不明である。消費税減税については、7月の参院選を前に野党各党の意見が分かれており注目される焦点である。このような状況下で、立科町議会から意見書を提出するのは適切でないと考え、意見書提出に反対する。

総務経済常任委員会

所 管 総務課・企画課・産業振興課・会計室・議会事務局
委員長／芝間教男 副委員長／中村茂弘
委 員／今井英昭 今井清 榎本真弓 小野沢常裕

6月11日、付託案件を審査した。主な質疑内容は次のとおり。

質疑 Q & A

職員の勤務時間及び休暇等に関する条例の一部を改正する条例制定について

Q この条例の中身は。

A 育児又は介護を行う職員の深夜勤務及び時間外勤務の制限をする条例であり、その対象を「3歳に満たない子」を「小学校就学の始期に達するまでの子」としたこと。また配偶者等が介護を必要とする状態に至った職員に対する意向確認等相談体制を整備したものである。

Q 具体的にはどのような相談体制を整えるか。

A 介護について知識がある町民課職員とも連携を取りながら相談体制を整えてゆきたい。

令和7年度立科町一般会計補正予算（第2号）について

Q たてしなびデマンド交通予約システムの構築事業について、導入にあたり各世帯に配布されているタブレットで行う設定はあるか。

A たてしなびの初めての画面下に「デマンド予約」というアイコンを入れる。当初設定は役場において行い、各家庭において特に設定を行う必要はない。



たてしなびタブレット端末

Q ふるさと寄付金事業経費の補助金は（一社）信州たてしな観光協会主催の白樺高原花火大会に対するものというがその内容は。

A 協会からの「ガバメントクラウドファンディング」要請に伴う増額である。

これは町内事業提案者が、立科町振興計画に掲げる町づくり施策に資する事業で、地域の課題解決及び活性化につながる特色ある事業については、町が認定しインターネットを通じて広く不特定多数の者から募集を行う。その寄付金を活用して、その事業に対する補助金を交付するものである。なお、寄付募集期間は最長3か

現地視察

白樺高原国際スキー場では、蓼科牧場ゴンドラリフトについて、4月7日に発生したワイヤーロープ損傷事故は、11番支柱（山頂駅手前最終支柱）において、索輪交換作業中レバブロックが過重負荷により損傷した事故であること。その後の修理作業状況及び修繕方法等の説明を受けました。

2 in 1スキー場では、安全バー安全点検の様子を視察するとともに付替え計画について指定管理業者より説明を受けました。



白樺高原国際スキー場 ゴンドラリフト



2in1スキー場 クワッドリフト



Q ワイヤーロープ損傷事故責任とゴンドラリフト索条交換の関連についてはどのような関係があるか。

令和7年度立科町索道事業特別会計補正予算（第1号）について

月間とし、事業提案者は目標金額に達しなくても事業は必ず行わなければならない。

A ワイヤーロープの損傷事故については指定管理業者において修繕し、その責任は果たしている。今回の交換は国の示す7年の耐用年数を超えているため、工事を行うものである。財源については、有利な辺地対策事業債を活用して行く。

社会文教建設常任委員会

所 管 町民課・建設環境課・教育委員会

委員長／村田桂子 副委員長／森澤文王

委 員／村松浩喜 今井健児 宮坂幸夫 秦野仁美

6月10日、付託案件を審査した。主な審査内容は次のとおり。

令和7年度立科町一般会計補正
予算（第2号）について

Q 歳入で諸収入の衛生費雑入に
おいて、1千3百万余が皆減
となった理由は。

A 国が新型コロナウイルス定期接種ワ
ク
チン確保事業助成金を今年度
から取りやめる決定をしたこと
によるもの。

町では令和6年度は定期接種対
象者の自己負担金を2千円とし
たが、この決定を受け定期接種が
始まる秋頃までに、自己負担額及
び必要な予算措置などについて再
検討する。

※自己負担金を4千円にするとの
報告（7月8日全員協議会）

■ 現地視察

■ 6月10日 夕方4時～

■ 立科町児童館
「こども未来館」



思いおもいの時を過ごす子どもたち

児童館の利用が多くなり混雑し
て危険でもあるという現場の訴え
を受けて、委員会で児童館の状
況を視察しました。
もともと子どもも多く集まる午
後4時ころを目途に委員全員で伺
いました。
児童館の定員は40名に対し、放
課後児童クラブの登録児童数が38
人。その他下校後来館の子どもた
ちを含めると80人ほどが所狭しと
活動していました。



ホールいっぱい使って活動する子どもたち

この日は雨模様ということもあ
り、外へ出かけることもできず
に、ほぼ毎日の利用者が館内に集
合。
学習室では一心に宿題をする
子、フロアでは絵本を開く子、ゲ
ームに興じる子、折り紙・お絵描
きに見守りスタッフとお話しなが
ら取り組む子、ホールでは一輪車
の練習をする傍らで、ドッジビー
（ソフトディスクを使ったドッジ
ボール形式のゲーム）のディス
クが右に左に行き交い、ボール遊
びをする子もいました。指導員7人
がフル対応で子どもたちを見守っ
ていました。



館長からの説明を聴く

放課後だけでも混雑しているの
に、夏休みで朝から夜まで安全に
子どもたちに過ごしてもらうには
どうしたらよいか。職員の体制強化
も必要だが確保が課題だとのこと。
現在、隣地にある体育センター
にも活動場所を拡げ、子どもたち
を分散するよう工夫しているとの
ことですが、子どもたちが休む場
所（クールダウンする場所）も暑
いということと熱中症対策が課題
とのこと。
猛暑の日中も子どもたちが安全
に過ごせるように緊急に対応する
必要性を認識した視察でした。
※権現山屋内運動場の会議室等に
エアコンを設置など整備し、児童
を受け入れる場所の確保をするこ
とにしたとの報告がありました。
（7月8日臨時議会）



質問項目

今定例会では、議員9人が一般質問を行いました。

いまい きよし
今井 清 議員 …… 6ページ

町民の声を聞いて町政運営をしているか

おのざわ ときひろ
小野沢 常裕 議員 …… 7ページ

- 1 人口減少の抑制と関係人口を増やす施策について
- 2 権現山運動公園の管理について

もりさわ ふみお
森澤 文王 議員 …… 7ページ

- 1 災害対応に係る駐車場の確保、整備について
- 2 町内の区の経済負担について

はたの ひとみ
秦野 仁美 議員 …… 8ページ

- 1 これでもいいか！立科教育⑤ 中学校の部活動はどうなるのか
- 2 これでもいいか！立科教育⑥ 児童館の現状と課題について
- 3 これでもいいか！立科教育⑦ 高校生への学びに対する支援について

しばま のりお
芝間 教男 議員 …… 8ページ

住民サービス向上に向けた町の取り組みについて

いまい けんじ
今井 健児 議員 …… 9ページ

- 1 野焼きによる火災防止について
- 2 蓼科山七合目登山口のトイレ及び駐車場の有料化による財源確保について

むらた けいこ
村田 桂子 議員 …… 9ページ

- 1 子どもたちの放課後の充実のために
- 2 公共交通の充実改善のために

みやさか ゆきお
宮坂 幸夫 議員 …… 10ページ

- 1 索道事業における指定管理の運営収支について
- 2 教育長流のたてしな保育園長人事で、職員の職務遂行に問題がないか
- 3 入学式前の学校付近の安全確認について
- 4 公民館長職は教育次長経験者の指定席か、等の公民館に関するについて
- 5 細谷地区における崩壊空き家対策と公民館前の横断歩道設置、生活道路の補修及び交通対策について
- 6 平成28年度から開始された上水道管伏せ替え工事について
- 7 職員給与と多面的機能支払い交付金について追跡質問
- 8 既存の補助金事業の見直しについて
- 9 蓼科牧場交差点周辺の利活用について
- 10 広報たてしなに地域の代表者を紹介するコーナー設置について
- 11 町に建設中の町営住宅の模型について
- 12 たてしなの里権現の湯の売上金の管理について
- 13 えんどこ祭りを近い将来に行政から商工会に主催を移行する考えについて
- 14 災害発生時に備えた備蓄品は万全か

むらまつ ひろよし
村松 浩喜 議員 …… 10ページ

- 1 町民による公益的な活動への支援を充実させるべきだ
- 2 持続可能な米づくりと農地の有効利用に向けて、積極的な取り組みを

※太字の質問を掲載。議事録は議会ホームページで閲覧できます。

町民の声を聞いて町政運営をしているか



今井 清
いまい きよし

問 任期中にどのような住民懇談会をいつ開催し、参加者は何人か。
町長 令和4年に地域懇談会を開催し、参加者は15名。
問 行政運営は住民の声を聞きながら進めるのが基本だが町長の考えは。
町長 町民の声を聞いて進めることが基本であると考えている。
問 町長が公約した町づくり創生会議で提言した「保育園・小・中学校保護者との懇談会を定期的に年1回開催されたい」との提言を実行されない理由は。
町長 多くの諸団体や後援会皆さんと会話し、町長室を開放して耳を傾けている。学校やPTAから要望があれば検討したい。
問 議会では、コロナ期間中オンラインミーティングにより町民と語る会を開催した。役場もオンラインに対応した環境整備をしたが実際に活用したのか。
町長 住民との懇談会には活用していない。



改修予定の白樺高原スキー場

問 スキー場の多額な改修にあたり再三住民説明会の開催を求めたが、里地区において開催されない理由は。
町長 私のところに里の住民からあまり声は届いていない。
問 中央公民館周辺整備について町民の声を反映させた施設にするべきと考えるが、委託業者に任せる前に町民説明会をいつ開催するのか。
町長 年内を目途に基本方針を策定したのちに町民の声を伺いたい。
問 政策が町民要望にマッチしているか何をもとに判断しているか。
町長 総合戦略を策定し、評価委員の評価により判断している。
結び 行政運営は、町全体のバランスを考え立案し、政策を実行する際は、町民に説明する責任を果たす必要がある。



小野沢 常裕
おのざわ としひろ

権現山運動公園の管理について

問 運動公園線の歩道脇のツツジ25株ほど、根元から切られて撤去されていた。これはどうしてか。

教育次長 枝が歩道に伸びて歩行に支障が出てきたり、スズメバチが巣を作ったりして苦情があり、支障木として撤去した。

問 年間を通して樹木の剪定や草刈り、破損の修理などが追いついていない。何が原因か。

教育次長 剪定や草刈りはシルバー人材センターに委託して、3週間に1回程度行っている。破損については職員の見回りで対応しているが、他の業務と兼務のため毎日の見回りは難しい。

問 西側斜面が耕作放棄地になっている。3月に策定した地域計画では10年後はどうなっているか。

産業振興課長 農業委員会の農地パトロールで再生利用が困難な農地となっている。よって、現時点では地域計画に位置付けられていない。

教育次長 野外施設の管理はどのように行っているか。

職員の見回りと、草刈り

はシルバーへの委託、マレットゴルフ場は体育協会のマレットゴルフ部へ委託している。

問 首都圏の高校や大学にテニスの夏合宿を呼びかけたかどうか。

教育次長 町民等の利用も多いので、現在は考えていない。

問 放課後児童教室でマレットゴルフも行ったかどうか。

教育次長 何回か行ったが、子どもたちに人気が無くて継続しなかった。

問 小川でカワニナを飼育して蜚がみられるようにしたかどうか。

町長 一定の水量が必要で、砂礫も少なく、生物の生育には向いていないので現時点では難しい。

問 町の公園や史跡の管理に地域おこし協力隊を募集したかどうか。

町長 地域の活性化、定住定着につながるが難しいので考えていない。

結 普段から公共の場をきちんと管理する。このことが、町民の理解を得るために一番大事なこと。



しっかりと管理したい
町民憩いの場

町内の区の経済負担について

問 町内各地区における整備事業、例えば消防設備、道路整備等において、人口減少等により区の負担が大きいのとなってきた。負担の軽減を図るべきではないか。また、事業への負担割合の現状は。

町長 高齢化及び人口減少の進展により、消防施設や町道の整備費用等にあるという認識は町としても持っている。急激な人口減少を抑える取り組みが重要であると考えている。

消防施設の整備については、整備費の一定割合を負担頂いているが、人口減少や昨今の資材等の高騰している社会情勢等を考慮し、この負担割合の見直しに向けて現在、検討に着手しているところである。

総務課長 町に地元負担を納入して頂いているものとして、総務課では消防施設整備に対し、区分に応じて地元負担率等を内規で定めている。一種の消防自動車は地元負担なし。二種は、可搬動力ポンプ、貯水槽、消防庫、消火栓、警鐘楼等の新設・補修で、事業費が1件100万円以



森澤 文王
もりさわ ふみお



消火栓更新の地元区負担は軽いものではない。

上のものは、地元負担を1割と規定。二種の事業費が100万円未満の場合とホース、管鎗器具箱等の購入、詰所に該当しないものを三種として2割と定め、四種では詰所を5割としている。

町長の答弁の通り、この負担割合の一部について現在、見直しの検討に着手したところである。

建設環境課長 建設環境課では、主として農業に利用されている町道の道路舗装及び維持、修繕の工事費用について、地元区から受益者負担金を頂いている。具体的には、3級町道の場合、費用の1割を。その他の級外町道では2割を地元区の皆様にご負担頂いている。



秦野 仁美
はたの ひとみ

中学校の部活動はどうなるのか

問 今年度中に「地域クラブ運営協議会」を設立予定だが、その構成や具体的なスケジュールは。又、町はどこまで関与し、どのように子ども達の活動を支えていく考えか。

教育次長 「地域クラブ運営協議会」は、7月上旬を目指し調整中である。

委員には、中学校長・スポーツ少年団や町体育協会識見者、各部活動の部会代表者等で構成予定。

町長 教育委員会任せにせず、町も関与し、近隣市町村とも情報共有しながら、活動を支援していく。

児童館の現状と課題について

問 児童館の利用者が急増しているが、現在の受け入れ状況や安全面への対応は。また、夏休みに向けた対応や今後の居場所づくりについて、方策を考えているか。

教育次長 今年の4月と5月は連日100名近くが来館し、過密による安全面の懸念が生じた。その為、保護者への協力依頼や体育センターへの一時分散で対応したが、利用者数は依然として変わらず。既存施設の

活用も検討したが、距離や安全面などからすぐの実現は難しい状況。夏休み中の児童館の受け入れ体制を模索しながら、今後も子どもの居場所作りの方策を検討していく。

高校生への学びに対する支援について

問 高校生には、通学費や学用品等多くの負担がある。特に町外に通う生徒は、月2万円以上の定期代や保護者の送迎等、経済的負担が大きい。町内に高校があるから支援は不要という考えもあるが、進路の自由と学ぶ権利を守るには、通学・学習支援が必要ではないか。

教育次長 現時点では、高校生への通学支援を行うことは考えていない。学習支援については、小中学校を対象に英語、漢字、数学の検定料の助成を実施している。高校生にも対象を広げる方向で検討中。高校生支援の一助になればと考えている。



賑わう児童館内の様子

住民サービス向上に向けた町の取り組みについて

問 平成29年度に第三者委員会を設置し、不適切な事務処理が発覚した。再発防止を意識し、その後両町町長との思いを一体とした業務執行と、住民サービス向上に向けた職員との関係をどのように築いてきたか。

町長 私と職員との関係は、まず垣根を無くし、風通しの良い明るい職場環境の構築を心掛けています。その上で町民の皆様の福祉向上と将来を見据えた町づくりの実現に向けて理事者・職員が目的意識を持ち、情報を共有しながら業務に当たっている。

具体的には、月初めの朝礼や幹部会・各課等とのヒアリング時、決裁時等を捉えて町づくりの思いを伝えて、相互理解が得られるよう努めている。

問 人事異動について、業務と職員の状況を考慮した異動をしているか。

副町長 町全体の職員構成は約60%が十年未満の経験であり、とても特



芝間 教男
しばま のりお

異な職員構成となっている。異動に際して配慮しているが難しいところもある。

多くの係では正副担当者制を適用しているがそうでない所もある。対応としては、係全体でフォローする体制を取り係会等で事業の進捗状況を確認している。

異動後においてはしっかりと引継ぎを行っている。

問 職員が一人で抱え込まない、コミュニケーションを取りやすい環境づくりは行っているか。

総務課長 課会、係会では伝達事項、進捗状況の確認や課題について協議を行って情報共有に努めている。

日常においても業務の相談等を行っており、以前に比べてコミュニケーションの取りやすい環境が整っている。



遅くまで電気の灯る立科町役場



今井 健児
いまい けんじ

問 野焼きによる火災を未然に防ぐことは出来ないのか、町の考えは。

町長 空気が乾燥し、風の強い日は、野焼きによる火災や山火事などが発生しやすくなることから、3月から4月の時期に、気象庁の乾燥注意報が発令された場合などには防災行政無線により、消防署に届け出の上、風のない日を選び、複数人で行うなどして火の取り扱いに十分注意することについて、随時周知するとともに、町広報紙、たてしなびでも同様に周知をしているところである。

また、毎年3月1日から7日までの春の火災予防週間においては、消防団による巡回啓発、チラシの全戸配布等の広報啓発活動を実施。重点的に周知することで、野焼き山火事の防災防火対策に努めている。

しかしながら現状野焼きの火災は続いており、消火にあたっては関係する多くの方の時間と労力を要し、また建物火災を含む大規模な延焼の可能性もあることから、さらなる注意喚起に努めてまいりたい。

野焼きによる火災防止について



皆さんは、観光における受益者負担の在り方をどう捉えるか

夢科山七合目登山口のトイレ及び駐車場の有料化による財源確保について

いうふうにも思っている。

問 整備をしてはどうか。

町長 全体のエリアとしての活用など、有料化が良いのか協力金みたいな形が良いのか、今の課題も含め研究していく。

公共交通の実証実験の概要と課題は

問 いよいよ10月からスマイル交通の一部を予約型(デマンド)交通の実証実験が始まるが、その概要は。

企画課長 今ある車両2台を活用し朝夕は定時定路線運行、日中は1時間単位の予約によるデマンド交通とする。ただし夢科地区は従来通り、終日、定時定路線型で土日も運行。

*まず、登録してもらい、電話やスマホ・たてしなびから予約ができるようにする。電話予約はオペレーターが受ける。

*原則バス停からバス停の乗り合い型。250mの人口メッシュで停留所を設ける。15増の71か所に。

*原則平日の午前9時から15時まで

*料金は1乗車200円。

問 佐久市では65歳以上の方、免許返納者などは玄関先から利用ができるが当町はどうか。

企画課長 あくまでもバス停から利用を。そういう方は福祉型デマンドタクシーの利用を。

問 補助制度を設け運転手確保を。



村田 桂子
むらた けいて

企画課長 県の免許取得の補助利用を。

問 町民への説明は。

企画課長 9月頃から進める。役場窓口でも説明する。

問 町外へのアクセスはどのように。

企画課長 デマンド交通は町外へは対応していない。佐久市・上田市には中山道線など従来の交通で。日中は定額タクシーチケット制度を利用して。通院通学など広域での運行が課題で研究する。

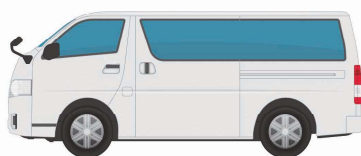
問 実証実験の検証はどのように。

企画課長 1年間を目安に意見を聴く。長和町では、町内だけではなく上田市や立科町のツルヤ立科店

夢科高校など4カ所に行かれる。年中無休で登録もなく観光客も利用できる。課長は長和方式をどのように受け止めたか。

企画課長 大変利便性に優れた制度で非常に参考になる制度。JRバスへの運行委託や長和町との連携など将来的には考えられる。

結 町民の期待は高い。後発の当町は大いに先進地に学び、利用しやすい制度に。





宮坂 幸夫
みやざか ゆきお

問 索道事業における指定管理の運営（町の施設整備費と指定管理者納付金）について

町長 令和2年度から令和6年度における支出金額は3億544万円、収入金額は1億1946万円。

問 教育長流のたてしな保育園人事で、職員の職務遂行に問題がないか。

教育長 教育次長が管理監督をしており、特に問題はない。

問 入学式前の学校付近の安全確保について。

教育次長 除雪により中学校入口付近の歩道の一部に凹凸があり、入学式前に仮対応をして、4月末には穴埋め工事完了の確認をした。

問 公民館主催の体験教室に子どもたちも楽しめるひらがなマージャンを取り入れてはどうか。

教育長 健康マージャンとして高齢者向けに実施している。子ども向けのものには現状では考えていない。

問 細谷地区における崩壊空き家対策と公民館前の横断歩道設置、生活道路の補修及び交通対策について

町長 空き家対策について町では、所有者の皆様に対し、広報紙、ホームページ、たてしなびによる周知、個別通知、相談会の開催を実施している。

建設環境課長 当該空き家については、昨年9月に管理者が相談にのり、町になり、町の担当者と空家等対策

協議会の相談員から対応方法等をお知らせしたところである。

総務課長 横断歩道については佐久警察署ほか、関係機関へ要望済みだが設置の実現には至っていない。

問 野方地区十字路のカーブミラー設置についてはいかがか。

総務課長 今後、各関係機関と検討していく。

問 平成28年度から開始された上水道管伏せ替え工事について、工事件数と金額は。

町長 工事件数は17件で金額は3億376万4000円。

問 17件のうち落札率が100%の工事はあったか。

総務課長 三社（件）。

問 職員給与について（参事、再任用、会計年度任用職員の平均給与は）

総務課長 参事の平均年収は523万5千円。ほかは勤務形態がそれぞれ異なるため数字は出せない。

問 寒冷地手当（9万9千円）は多いと考えるがいかがか。

総務課長 妥当な金額と考えている。既存の補助金（生ごみ処理機購入、薪ストーブ購入、老人クラブ活動事業に対する補助）の拡充の考えは。

問 各所管課長 見直しの考えはない。

問 広報たてしなに地域の代表者を紹介するコーナー設置の考えは。

町長 現状の方法のまま、写真付きは考えていない。

問 災害発生時に備えた備蓄品は万全か。

町長 町で備える備蓄品とは別に、町民の皆様には広報等で日頃から、最低でも三日分の備えをお願いしている。



村松 浩喜
むらまつ ひろよし

町民による公益的な活動への支援を充実させるべきだ

問 ①ボランティアグループ「ねこぼし」が行う地域猫活動と②「立科町消費者の会」が行う不要食器リサイクル事業について、町長の見解は。

町長 ①地域住民による動物愛護、生活環境保全の取り組みだ。町では不妊・去勢手術費用を補助し、猫の捕獲器を貸し出している。②資源循環型社会の実現に向けた重要な活動だ。①②ともに必要な支援をしたい。

問 ①②について、役場は今後どのように取り組むか。

建設環境課長 ①継続して町長が答弁した支援を行う。今年度は講師を招き、地域猫学習会を開催する。②再利用されなかった物を岐阜県の廃棄物再生処理業者へ搬入し、廃棄物処理料を支払う。その他各種業務に対応する。

結 ①猫の手術への補助金は手術代で全額支出され、手術以外の必要経費には充てられない。無報酬のボランティアには、経済的な支援を要する。②同会は町の補助金を受け

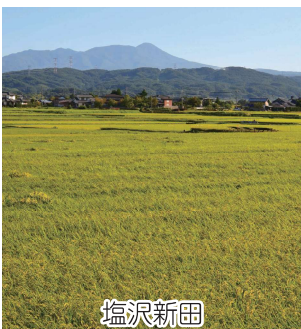
ているが、この活動は通常の活動の枠を超えている。①②を含めその他でも、立科町全域にわたる公益的な活動に対しては、役場としてどうするべきか、何ができるかを考えてほしい。

持続可能な米つくりと農地の有効利用に向けて、積極的な取り組みを

問 ①立科町は美味しいコメの産地として定評がある。しかし近年、水稲の生産量と栽培面積は減少傾向が続く。②水田以外の農地が遊休荒廃地や耕作放棄地になってしまいうことも憂慮すべき事態だ。これらの問題解決に向けて、町長の方針を問う。

町長 ①国の方針に基づき主食用米の適性生産に取り組むため、長野県農業再生協議会が生産数量目安値を定める。当町でも、配分された目安値に添った生産に取り組んでいる。②農業委員会や農業協同組合と連携して、新規就農者や担い手への農地中間管理事業を活用して農地集積を図っている。

結 「令和の米騒動」により、国策の見直しが予想される。立科町で米づくりにが末長く続けられるよう、なお一層の力を注ぐよう望む。



議会改革特別委員会を 設置

令和7年6月13日、第2回定例会の
発委第6号により、「議会改革特別委
員会」の設置を決議しました。決議内
容は次のとおりです。

1. 名称 議会改革特別委員会
2. 設置の根拠 地方自治法第109条
第1項及び立科町議会委員会条例第
5条
3. 目的 議会の改革に関する調査研究
4. 委員の定数 12人
5. 調査の期間 議会の閉会中も調査
を行うことができるものとし、調査
終了まで継続して調査を行うものと
する。

特別委員会にすることで議事録が残
り、協議結果は必ず履行されます。委
員長は村松浩喜、副委員長は今井英昭
が務め、毎月1回以上の会議を開催す
る予定です。現時点での協議予定内容
は次のとおりです。

- ・議員定数及び議員報酬について
- ・役場主催の委員会、検討会等に議員
が参加することの必要性について
- ・常任委員会代表質問について
- ・議員提案制度の導入について
- ・議会力の向上について
- ・通年議会について
- ・その他

以上

観光施策の未来を考える議会研修会



令和7年7月10日、議会第1委員会室
において、和田 寛^{わた ゆたか}先生の講演を受講しまし
た。当町の地域振興を図る上で、2つのス
キー場を有効活用することは、とても重要
です。長野県の白馬岩岳エリアを、冬場の
スキー客だけに頼らない通年型のリゾート
として生まれ変わらせた同氏の知恵と工夫
には学ぶところが多いと考え、この研修会
を企画しました。

講師プロフィール

1976年、東京都生まれ。2000年に東京大
学法学部を卒業後、農林水産省、
ベイン・アンド・カンパニーを経て、2014年に白馬で働き始める。白馬
岩岳マウンテンリゾートの経営者として、「オールシーズン・マウンテンリ
ゾート」を目指した改革に取り組む。革新的なアイデアを次々投入した結
果、2019年にはグリーンシーズン（春～秋）の来場者数がウインターシ
ーズン（冬）を超え、収益も改善した。現在は観光・リゾート地の再生に
向けたコンサルティング企業「株式会社ズクトチエ」を設立し、共同代表
に就く。「スキー場は夏に儲けろ！」（東洋経済新報社）の著者。



演題：世界水準のオールシーズンマウンテンリゾートを目指して

～隠れた資産の発見と磨き上げを通じた地域活性化～



- ・スキー産業は厳しい環境下にあるので、スキー場を維持するため
には大きな変化が求められる。
- ・白馬岩岳では、バブル崩壊後のスキー市場の急速な縮小に加えて、
降雪量の少なさにも悩まされるようになっていた。
- ・上記のようなスキー場経営の苦境を脱するべく、地域一帯での「生
き残り策」の検討体制を構築した。
- ・さまざまな「非日常感」を一年中提供することのできる「リゾート」
を目指し、目標達成に向けた施策を次々に展開した。
- ・スキーやスノーボードが目的ではないお客様でも楽しめる施策に
より、冬季の「ノンスキーヤー」が1割を超えた。

議員との意見交換会 グループ募集

広報広聴委員会からお知らせします。本誌では『聴かせてください。あなたの気持ち』のコーナーを設けています。

町内の様々な団体・グループの皆様のお話を伺って作り上げる紙面です。

〈今後の予定〉

8月に商工会青年部と、11月下旬には立科町に移住されてきた皆様※との意見交換会を行う予定です。

(※詳細は次号でお知らせします。)



季節の一枚



食事中?のシラサギ (野方地区)

表紙 (保育園年長児の作品)

お散歩中に見つけたカエルを保育園に持ち帰り、子どもたちは図鑑を使って名前を調べたり、そのユニークな動きをじっくり観察したりと、新しい発見の連続でした。

カエルを題材にした製作では、子どもたちの好奇心とアイデアがたくさん詰まった作品ができました。「カエルってぴよんぴよん跳ねるよね!」という子どもたちの声を受けて、紙を蛇腹折にして手足を表現し、元氣いっぱい跳ねるカエルを作りました。

雨の季節はちよつと憂鬱に感じることもあります。が、カエルの楽しそうな姿を見て、雨の日も楽しいと感じることができました。この活動を通して、子どもたちは自然への興味を深め、豊かな想像力を育むことができました。

(たてしな保育園)

議会活動について「ご意見・ご要望」をお聞かせください。

発行／長野県立科町議会 編集／広報広聴委員会

〒384-2305 長野県北佐久郡立科町芦田2532番地 TEL(0267)88-8413 FAX(0267)56-2310

E-mail gikai@town.tateshina.nagano.jp URL <https://www.town.tateshina.nagano.jp>



議会ホームページ

編集後記

5月に田植えをした苗が、分けつという不思議な現象により、今では10倍もの茎数になって穂を出す準備をしています。昨今の物価高での生活では、私たちの財布の中身も分けつしてほしいものです。

さて議会では、前号でお知らせした新しい役割で活動が始まりました。

その中で、議長の呼びかけにより新たに「議会改革特別委員会」が全議員の参加で発足しました。(11ページ参照) どうしたら町民の皆さんに認められる議会になっていくかを毎月研修し、報告いたしますので、ご確認下さい。

小野沢常裕

○今後とも「議会だより」をご愛読ください。

広報広聴委員会

委員長
副委員長
委員

秦野仁美
小野沢常裕
榎本真弓
村田桂子
芝間教男
今井健児